

7 汚染された魚をとおしての水銀中毒（水俣病の発生）

【どうしたら水俣病になるの？】

当時は今みたいに食べ物が豊富ではなく、とくに、平地が少ない海岸周辺では稲作があまりできませんでした。そのため米よりも海でとってきた魚のほうが身近な食料で、海のそばの集落では、栄養の豊富な魚は生活にかかせないものでした。

とくに漁村では、汚染されているとは知らずに、海でとってきたしんせん魚や貝などを毎日たくさん食べていたので、メチル水銀が体の中にだんだんたまっていき、水俣病患者が多く発生しました。水俣病はメチル水銀による中毒症なので、他の人にうつったり遺伝したりすることはありません。

水俣病には、汚染された魚を食べて病気になった小児・成人水俣病と、お母さんのおなかの中で赤ちゃんが病気になって生まれてきた胎児性水俣病があります。



水銀が入っていると知らずに魚を食べ、水俣病になった

当時の水俣湾にいた魚などの例

